

日本原子力学会 核燃料部会

平成 23 年度 第 1 回運営小委員会議事録

日時 : 平成 23 年 6 月 21 日 (火) 13:30~16:10

場所 : 日本原子力学会事務局 会議室

出席者 : (順不同 敬称略)

岩田部会長、安部田副部会長、宇埜委員、大江委員、緒方委員、北嶋委員、木下委員、草ヶ谷委員、篠原氏(小林委員代理)、高野委員、武田委員、野田委員、平井委員、巻上委員(初めのみ)、松浦委員、若松委員、真寄[記](17名)

議事

0. 東電巻上委員から

巻上委員から福島事故について、皆さまにご心配をかけてしていることに対してお詫びと現在の状況、復旧に全力を尽くしていることの説明があった。部会長から、部会で支援できることがあれば、遠慮なく言ってくださいと、巻上委員へ述べられた。

1. 前回運営小委員会および総会議事録案確認

真寄庶務幹事から、前回第4回運営小委員会議事録案(資料No.1-1)を提示し、コメントがあれば、後日、事務局まで連絡を願うとした。

2. H23年度の運営小委の委員・幹事

真寄庶務幹事から資料No.1-2により、4月に行ったメールによる全体会議で承認された運営体制と今後の業務分担案を紹介。また、出席新委員からの挨拶を実施した。

3. 予算について

真寄庶務幹事から、今年度予算案について、説明を行った。委員から実施しない夏期セミナーへの補助金は予算として残っているのかとの質問があり、学会事務局からの指摘もあり、会議費予算に変更していることを説明した。また、部会活動報告書に記載の予算との数値が異なっているとの質問もあり、確認することとした。(確認した結果、活動報告書に記載の数値は、確定前の数値で有り、今回、示した数値が確定値である。)

4. H22年度の核燃料部会活動報告

安部田副部会長から資料No1-4により説明がなされ、学会事務局へH22年度の活動報告書を提出していることの説明があった。

5. 企画小委からの報告

1) 日韓セミナーの見直し

安部田副部会長から資料No1-5-1により説明がなされ、日韓セミナーは、役割を終えたものと判断し、終了する方向で検討する。継続的な情報交換の場としては、ANFC会議などを利用する。今後、日韓双方で文書による確認を行う予定。委員から特段のコメント無く了承された。

2) 第一回 ANFC の企画・準備について

安部田副部長から資料 No1-5-2 により説明がなされた、平成 24 年 3 月に大阪にて開催される第一回 ANFC について準備していく必要がある。ANFC の幹事は、黒崎さん、逢坂さんに加え、安部田副部長、坂本さんの 4 名を中心に、企画・準備をすすめていく。スポンサーについてもお願いしたいとの説明があった。

3) WRFPM2011 (中国) の準備状況

安部田副部長から資料 No1-5-3 により説明がなされた、WRFPM の中国での議事録から準備状況を紹介。また、Keynote Speech を岩田部会長にお願いしたいとの提案があり、運営小委員会として異議無く了承された。

4) アジアジルコニウム会議速報と今後の取組み

安部田副部長から資料 No1-5-4 により、黒崎企画委員が作成した議事録から説明がなされた。また、この議事録を核燃料部会 HP に掲載することの提案があった。委員から福島事故のことも念頭に置きながら活動していると思えるように文章の追加の希望があった。

6. 福島事故の核燃料部会としての取組み

岩田部会長から「核燃料部会として、福島に対応するアクションをとり部会としてもしっかりと情報発信をしたい。部会の範囲内でなにかを作り、核燃料の専門家として整理し、共有することが重要であると考えている。アカデミックなチャレンジを核燃料部会としてもやりたいと思っている、具体的に整理したものを今後作る予定であるが、今まで、後手後手に回った対応になってきたと思っている。それほど遅くない時期に、まとめたいと思っている、後日整理したペーパーを送るので意見をほしい、ペーパーについては、国内企画担当の NDC 小林さんに整理いただくと考えている。」との提案がなされた。委員から、国民から期待されている学会の役割にそったメッセージ、また時期を考えて誤解を招かないようなものとしてほしいとの要望が出された。

7. WRFPM2014 (日本) の準備グループの立上げ

安部田副部長から資料 1-7 により説明がなされた。日中韓で持ち回りで行われている WRFPM が 2014 年に日本で開催されることになっている。来年春には第 1 回の会合委員会を開き、年末には幹事会を開き、開催場所を決める必要がある。日本での開催は 9 年ぶりとなる。前回の京都での開催の準備については、林さんが Web にまとめられている。必要な委員会を立ち上げて準備を進めていきたい。また、委員会をサポートする幹事会を電力とメーカーで構成すること、電力は原電が中心となることとした案が提示された。委員から WRFPM についての経緯を知りたいとの意見があり、副部長から説明。原電北嶋委員から、過去の経緯など確認し、改めて提案を受けるべく検討したい旨の意見があった。

8. 来年度の夏期セミナーの運営

大江委員から、夏期セミナーについての説明があった。今年度の夏期セミナーは震災があったことを考えて中止で決定している。来年度の夏期セミナーの担当は、スライドして引き続き行う。そこで、来年度は、3 部会合同で夏期セミナーと行う年となっており、委員の意見を聞きたいとのことであった。単独で実施することでも良いのではとの意見もあったが、安部田副部長から他の部会に確認をいただくこととなった。

9. その他

1) トリウム専門部会について

安部田副部長からトリウム WG については、格上げする予定であったが、原子力学会事務局から却下される形となった。WG 継続という選択肢もあったが、現在の状況では凍結するほうが好ましいと考えているとの説明があった。委員から異論はなく、当面は凍結で了承を得た。また、これまで 5 回の WG の結果を報告書にし、HP に掲載する提案があった。委員から販売の予定はないのかとの意見も出たが、販売に要する時間とコストは効率的なものと考えられないので、HP 掲載することで了解となった。

2) 運営委員の委員許可願い

安部田副部長から、学会も新法人に移行したことから、委員への就任依頼について、文書でお願いすべきと言う話もあり、必要となる場合は、文書による依頼が可能であるとの説明があった。既に、名古屋大学の長崎委員から同様の依頼があり、学会長名で出せないかと言う話も上がっている。安部田副部長から学会事務局へ確認いただくことになった。

3) 企画小委員会

安部田副部長から核燃料部会企画小委員会は、国内企画担当、セミナー担当、国際活動担当もメンバーになっているので積極的に参加いただきたいとの説明があった。

4) 部会報

武田委員から、部会報について、今春は発刊をしなかったが、次報について、メールにて意見を求めるので、意見と協力をお願いしたいとの話があった。

5) その他

木下委員から、ヨーロッパで原子力に対するストレステストが話題になっている。検討結果がまもなく、わかるようになるのが、インパクトが大きいのではと思っている。部会としても、このような情報に、もっと先の話を入れて、専門家としての信用度を上げる努力をすべきと思っているという意見があった。

10. 次回の運営小委員会の日程について

今年、秋の大会が 9 月 19 日～22 日、北九州で行われる。核燃料部会全体会議は、9 月 21 日に予定されている。運営小委員会はその前に開く必要がある。午前中は、核燃料のプログラムがあるので、前日 9 月 20 日の昼休みで運営小委員会を開催すべく、会議室の確保をしたい。決まり次第、連絡する。

以上